

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330240

研究課題名(和文) グローバルな競争環境下における大学国際化評価に関する研究

研究課題名(英文) Resaerch on Assessment of University Internationalization under Globally Competitive Higher Education

研究代表者

太田 浩(OTA, Hiroshi)

一橋大学・国際教育センター・教授

研究者番号：70345461

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,500,000円、(間接経費) 4,350,000円

研究成果の概要(和文)：欧州で進行中の大学評価プロジェクトであるNufficのMINT、CHRのIMPI、IAUのISAS、ACAのAIMの開発者と利用した大学に聞き取り調査を行うと共に文献調査を行い、プロジェクト間の相違点、課題、利点などを明らかにした。そのうち、IMPIが開発した国際化評価の489指標を翻訳し、日本の文脈に照らして妥当と判断される152の指標を使い、質問紙調査を日本の228大学に対して行った。調査で収集したデータの分析結果に基づき、日本の大学国際化の評価に関する現状と今後の評価のあり方、及び日本の大学にとって最も有効性が高いと考えられる指標群、また有効性が低いと考えられる指標群を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Four assessment projects of university internationalization in Europe, such as MINT by Nuffic, IMPI by CHR, ISAS by IAU, and AIM by ACA, were examined through interviewing their developers and users as well as analyzing documents regarding this kind of assessment. As a result, not only differences and similarities among those assessment projects but also their challenges and benefits were found. Then 489 evaluation indicators of IMPI were translated into Japanese and the questionnaire survey was carried out for 228 Japanese universities by using 152 indicators selected from IMPI's indicators in consideration of the Japanese higher education context. The survey results show the current situation and future outlook of internationalization assessment. Also, a set of the most effective evaluation indicators for the assessment of Japanese universities' internationalization efforts were revealed comparing with less effective indicators based on the statistical analysis of the survey data.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：大学の国際化 国際化の評価 大学評価 大学の戦略的取り組み 国際化と資源管理 評価手法 大学のマネジメント 評価指標

1. 研究開始当初の背景

(1) 国内外の研究動向：大学国際化の評価に関する研究は、国際化の定義を含む概念的な研究を基盤として、評価指標の策定と評価・分析の手法が中心的課題となる。国際化に特化した評価手法の開発は、留学生交流の高まりとともに、国際化がより重視されるようになった欧米を中心に進んでいた。国際大学協会 (IAU) の ISAS (Internationalization Strategies Advisory Service)、ヨーロッパ学術協力協会 (ACA) の AIM (ACA Internationalization Monitor)、欧州委員会の支援を受けてフランスの Campus France、ドイツの DAAD など 6 機関が共同で作成した IMPI (Indicators for Mapping and Profiling Internationalization) および米国教育協会 (ACE) の Mapping Internationalization on U. S. Campus が主要なものである。

(2) 着想に至った経緯と動機：研究代表者は、文科省の大学国際戦略本部強化事業 (SIH) において、国際化のモデル開発を担っていた日本学術振興会の調査研究アドバイザーを 5 年間務めた。その間、日本の大学では、全般的に国際化の現状把握が十分にされないままに、国際化の戦略や目標・計画が立てられ、全学的なミッションやビジョン、そして中長期的な目標・計画との整合性がとられていないこと、また「戦略性」という点について、十分な理解がされていないという実情を明らかにした。事後評価についても、様々な手法 (PDCA サイクル、SWOT 分析、ピアレビューなど) を活用して、改善に向かうような本来的な意味での戦略的取組みとなっているところが少なかったことを論文にまとめた。そして、実効性の高い国際化の組織評価を行うためには、評価指標群の提起だけでなく、行動計画の策定につながるような評価システム全体の構築が不可欠であるという示唆を得て、本研究プロジェクトを立ち上げることとした。

2. 研究の目的

グローバル化の急速な進展により、教育、研究、管理運営等大学のすべての機能において国際化の必要性が高まっており、全学的かつ中長期的な視点に立った戦略性の高い国際化が求められている。本研究は国際化が大学の周辺領域から中核的な課題へとシフトしてきたこと、高等教育財政における大学の説明責任が増してきたこと、世界大学ランキング等の市場型評価がグローバルな大学間競争を加速してきたことにより、大学の国際化がより多面的、重層的なものとなってきている現状を踏まえ、定量的及び定性的なデータによる有効な国際化の評価システムを考察した。その際、欧米で急展開している国際化評価の取組みを分析したうえで、日本の大学に適合した評価指標群と評価システムを提示し、その運用を実証的に検討した。

3. 研究の方法

(1) 2011 年度に大学国際化の評価に関する海外の先行研究・事例の調査を行った。同時に関連する国際会議、学会等で問題提起、情報収集、意見交換を行った。これらを通じて、先行事例の分析を行うと共に、この分野に関する研究者・実務家との連携を強化した。

(2) 2012 年度の前半は、引き続き先行研究・事例の分析を行うと共に、国内外の学会やシンポジウムで調査結果を発表すると共に、学術雑誌等に研究成果を投稿した。2012 年度の後半は、本研究プロジェクトの前半で収集した大学国際化評価に関する文献と聞き取り調査などのデータ、並びに先行研究と事例調査の比較分析を行い、中間報告書としてまとめた。併せて、日本の大学の国際化に関する実績を示す基礎的データを収集し分析した。

(3) 2013 年度は、本研究の最終目標である日本の大学に適合した国際化の評価方法と評価指標群を提示するための国内調査を行った。具体的には、欧米で実施されている大学の国際化評価の分析を元に、日本の高等教育の文脈を考慮して、有効度が高いと思われる評価指標を抽出し、国際化の目的やアプローチと絡めて、質問紙調査票を作成した。次に、それを使って日本の大学の国際関係部署に対し質問紙調査を実施した。そして、日本において大学国際化を評価する際に、有効性の高い指標とはどのようなものかということを見極めるための統計分析を行い、その結果をもとに、最も有効性が高いと考えられている指標群と評価システムを提示した。

4. 研究成果

(1) 2011 年度は、これまで国内で行われた大学国際化の評価に関する研究、日本における大学の機関評価に関する成果や課題、ACE が行った大学国際化の評価プロジェクトに関する成果や課題、それぞれについてのレビューをまとめた。また、欧州において進行中の評価プロジェクト Nuffic の MINT、CHR の IMPI、IAU の ISAS、ACA の AIM の開発者と利用した大学に聞き取り調査を行うと共に、プロジェクト間の相違点、課題、利点などを明らかにした。さらに、IMPI が開発した国際化評価の指標 (489 指標) を翻訳した。

(2) 2012 年度は、大学国際化の評価 (機関評価) に関する現状と課題について、NAFSA の年次大会では日本をケースとして、日本比較教育学会の年次大会では北米と欧州の先行事例について発表した。日本の認証評価機関の一つが新たに大学国際化の評価事業を開始したので、それを検証し、EAIE 年次大会と APAIE 年次大会で発表した。また、APAIE 年次大会では、欧州で広がりつつある大学国

際化の協調的ベンチマーキングの活用について、欧州の研究者と共に発表した。3月に日本学生支援機構が行った大学の国際戦略並びにその評価手法と指標に関するシンポジウムでは、海外の著名研究者と共にそれまでの調査に基づき、研究発表を行うとともに、今後の当該分野における研究の課題と評価の実践について深く討議することができた。2012年度の後半は、本研究プロジェクトの前半(1年半)で収集した大学国際化評価に関する文献と聞き取り調査などのデータ、並びに先行研究と事例調査の分析を行い、中間報告書としてまとめた。また、欧州で開発された大学国際化の評価指標群の妥当性と有効性を日本の高等教育の文脈を考慮し精査した。それにより、日本の大学にとって有効な指標を開発するために行う質問紙調査に利用できる指標を選択することができた。併せて、当該質問紙調査の対象となる日本の大学を選抜するために、大学国際化に関する実績を示す基礎的データを収集し分析した。これらの研究活動を通して2013年度に取組む国内の大学を対象とした調査の課題をより明らかにすることができた。

(3) 本研究の中間報告書をリポトリで公開すると共に、ハードコピーも配布したことで、2013年度前半には国内調査に対する多くの示唆を得た。2013年度後半は、本研究の最終目標である日本の大学に適合した国際化の評価方法と評価指標群を提示するための国内調査を行った。具体的には、中間報告書にまとめた欧米で実施されている大学の国際化評価を分析したうえで、日本の大学の国際関係部署に対し質問紙調査を実施した。調査票の作成にあたっては、欧州で開発された大学の国際化評価ツール IMPI を構成している489の指標の中から日本の高等教育の文脈に照らして妥当と判断される152の指標を抽出した。調査票の項目は、評価への取り組み状況、国際化の目的やアプローチ、152の評価指標の有効性と関連するデータを収集しているか、否かなどであった。本調査では、国際化について一定の実績がある日本の大学を対象とし、外国人留学生数・率及び科学研究費補助金採択件数などを使って228大学を選んだ。141大学から回答があり、回収率は61.8%であった。収集したデータの分析結果に基づき、日本の大学国際化の評価に関する現状と今後の評価のあり方、及び日本の大学にとって有効と思われる国際化の評価指標群について検討し、最終報告書にまとめた。具体的には、日本において大学国際化を評価する際に、有効性の高い指標とはどのようなものかというのを見極めるための統計分析を行い、その結果を元に、最も有効性が高いと考えられている指標群、あるいは有効性が低いと考えられている指標群を明らかにし、その理由や背景を考察した。最も有効性の高いとみなされる24指標は、「有効と非

有効の差」及び「有効性の加重平均」から抽出した(以下の表を参照のこと)。

有効な国際化指標:二つの基準において30位以内に入った指標			
指標番号	指標	有効と非有効の差	有効性の加重平均
01-003	当該年度に、交換留学制度ないし大学が提供する留学プログラム(研修を含む)で海外留学した学生の割合は	98.60	3.72
08-010	留学生(受入れ)に対し、到着後にオリエンテーション等を通して、必要な情報を包括的に提供しているか(たとえば、入学手続の場所、到着を報告する担当者、滞在先の入居手続に関する情報等)	97.90	3.69
08-022	留学生(受入れ)のビザや滞在・就労許可書類の取得にあたって、支援を行っているか	95.70	3.52
08-002	「留学生センター」あるいはそれに類する留学生(受入れ)支援のための組織は設置されているか	95.00	3.68
08-008	留学生(受入れ)に対し、到着までに必要な情報を包括的に提供しているか(たとえば、ビザ取得手続、生活費、授業料、宿泊施設[学生寮・アパート等]、大学から提供されるサービス・スポーツ・課外文化活動に関する情報等)	94.30	3.66
05-002	留学生(受入れ)に対して、特有の勉学事情に対応した支援(日本語教育、チューター制度等)を行っているか	93.60	3.56
08-005	学内施設はすべて、留学生(受入れ)も利用できるか	93.60	3.60
08-014	留学生(受入れ)に対し、国内出身の学生との交流を促進する支援体制が整えられているか	93.60	3.56
08-019	留学生(受入れ)向けに住居斡旋サービスを行っているか	92.90	3.45
08-035	職業上の目的で海外に行(教職員のビザや居住・労働許可書類の取得にあたって、支援を行っているか)	92.20	3.57
07-005	大学のウェブサイトは、一つ以上の外国語で留学生(受入れ)向けページが開設されているか	91.50	3.53
08-017	留学生(受入れ)が緊急事態に遭遇した場合に備えて、対策チームや手続の方法が定められているか	91.50	3.57
01-051	大学が提供する交換留学先(海外の協定大学)の量と質は、学生の需要に配慮されているか	90.80	3.42
03-001	国際化のための戦略が明確に設定されているか	89.40	3.70
05-087	単位として認められる海外派遣留学プログラムの数は	89.40	3.48
05-027	留学生(受入れ)を対象とする日本語研修を行っているか	88.70	3.44
05-072	海外で取得した単位の認定について規則や基準を定め、認定プロセスを制度化しているか	88.70	3.48
05-058	留学生(受入れ)の就職支援を行っているか	87.90	3.43
03-016	海外派遣(送出し)学生の数値目標を設定しているか	85.10	3.39
03-009	国際化を推進するための専門的な体制(インターナショナル・オフィスやそれに類する機関等)が設置されているか	85.10	3.59
08-013	留学生(受入れ)のための「メンター制度」あるいは「バディシステム」といった支援体制が整えられているか	84.40	3.50
03-015	留学生(受入れ)の数値目標を設定しているか	83.70	3.39
08-012	留学生(受入れ)が地域での交流活動に参加したい場合、サービスや支援を行っているか	83.00	3.39
01-009	当該年度の学位取得者全体に占める留学生(受入れ)の割合は	81.6	3.47

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計22件)

Hiroshi Ota, Japanese Universities' Strategic Approach to Internationalization: Accomplishments and Challenges, A. Yonezawa, Y. Kitamura, A. Meerman & K. Kuroda (Eds.), Emerging International Dimensions in East Asian Higher Education, Springer (図書所収論文)、査読有、2014、227-252、DOI: 10.1007/9789401788229

野田文香、アメリカ合衆国における大学国際化評価、大学評価・学位授与機構編「大学評価文化の定着：日本の大学は世界で通用するか？」ぎょうせい(図書所収論文)、査読無、2014、84-91

Ayaka Noda & Mikyong Minsun Kim, Continuing Professional Education for Japanese Government Officials: Study Destinations and Motivational Factors,

ternational Journal of Public Administration、査読有、36(8)、2013、544-555、DOI: 10.1080/01900692.2013.772627

太田 浩、戦略的国際化における Balanced Scorecard 活用の可能性、大学マネジメント、査読無、9(4)、2013、2-12

芦沢真五、持続可能な国際化を実現するために 大学国際化のための「ひと」「もの」「カネ」、大学マネジメント、査読無、9(4)、2013、20-27

芦沢真五、グローバル人材育成における大学の役割(グローバル・コンピテンスと学習成果分析)リメディアル教育研究、査読有、9(1)、2013、42-50

Uwe Brandenburg, John K. Hudzik, Hiroshi Ota & Susan Robertson, From Innovation to Mainstream and Beyond: The Unfolding Story of Internationalisation in Higher Education、H. D. Wit, F. Hunter, L. Johnson & H. V. Liempd (Eds.), Possible Futures: The Next 25 Years of The Internationalisation of Higher Education, EAIE (図書所収論文)、査読有、2013、63-78

太田 浩、周縁国家における世界水準大学の創出: ソウル大学(キースック・キム, スンヘー・ナム)、フィリップ・G・アルトバック、ホルヘ・バラン編、米澤彰純監訳「新興国家の世界水準大学戦略 - 世界水準をめざすアジア・中南米と日本」東信堂(図書所収論文)査読無、2013、195-214

芦沢真五、日本の学生国際交流政策、横田雅弘、小林明編「大学の国際化と日本人学生の国際志向性」学文社(図書所収論文)査読無、2013、13-38

塚田亜弥子・太田 浩、韓国の学生国際交流政策、横田雅弘、小林明編「大学の国際化と日本人学生の国際志向性」学文社(図書所収論文)査読無、2013、121-149

野田文香、米国における大学国際化評価の動向と課題、大学評価・学位研究、査読有、14号、2013、37-53

渡部由紀、欧州における大学国際化の評価指標に関する取組 国際化評価の目的・手法・指標に関する考察、京都大学国際交流センター論攷、査読有、3号、2013、23-41

太田 浩、東アジアにおける高等教育国際化の比較と連携、黒田一雄編 勁草書房『アジアの高等教育ガバナンス』(図書所収論文)査読無、2013、275-300

Hiroshi Ota, Dispatches from Japan: Thinking Beyond International Student Mobility, Higher Education Network, The Guardian、査読有、2012、[ucation-network/blog/2012/apr/23/japan-international-student-mobility

Hiroshi Ota, Internationalization of Universities Hiroshi Ota in Japan, In D. K. Deardorff, H. D. Wit, J. D. Heyl & T. Adams \(Eds.\), The SAGE Handbook of International Higher Education, SAGE Publications \(図書所収論文\)査読無、2012、470-472

太田 浩、グローバル人材育成の仕組みづくりを、公明、査読無、74、2012、33-38

太田 浩、海外留学者の減少傾向と一橋大学における対応策、平成 23 年度\(第 10 回\)留学生担当者協議会報告書、査読無、2012、16-25

Hiroshi Ota, Changes in Internationalization of Japanese Higher Education, IAU Horizons \(February/March 2012\)、査読無、17\(3\)/18\(1\)、2012、26-27

渡部 由紀、世界大学ランキングの動向と課題、京都大学国際交流センター論攷、査読有、2、2012、113-124

渡部 由紀、国際共同学位プログラムの定義と実施に関する課題、京都大学国際交流センター論攷、査読有、1、2011、95-103

21 太田 浩、大学国際化の動向及び日本の現状と課題: 東アジアとの比較から、メディア教育研究、査読有、8\(1\)、2011、\[http://www.code.ouj.ac.jp/media/pdf/vol8no1_shotai_1.pdf\]\(http://www.code.ouj.ac.jp/media/pdf/vol8no1_shotai_1.pdf\)

\[学会発表\]\(計 35 件\)

Sounghee Kim & Ayaka Noda, Challenges of Japanese Accrediting Agency toward University Internationalization Assessment, 58th Annual Conference of The Comparative & International Education Society, 2014 年 3 月 11 日, Toronto, Canada

Hiroshi Ota, Policy Transition in International Education in Japan and Hitotsubashi University's Reform Efforts, Japan-Australia Higher Education Seminar \(招待講演\) 2013 年 12 月 03 日, Australian Embassy, Tokyo

芦沢真五、多様化する海外学習機会と質保証のあり方、東洋大学国際地域学部グローバル人材育成推進事業公開セミナー「海外学習の多様化と学習効果分析」、2013 年 11 月 29 日、東洋大学、東京

Hiroshi Ota, University Education and Global Human Resource Development in Japan, Kick-off Symposium for the ASEAN Initiative for Developing Global Resource Network \(招待講演\)、2013 年 10 月 31 日, Tokyo Garden](http://www.theguardian.com/higher-ed</p></div><div data-bbox=)

Palace, Tokyo
Hiroshi Ota, From Inbound to Outbound: The Changing Landscape of Student Mobility in Japan, Japanese Studies Centre Seminars (招待講演), 2013年8月23日, Monash University, Melbourne, Australia
野田文香・渋井進, 単位の実質化をめぐる大学の取組と大学機関別認証評価、大学教育学会第35回大会、2013年6月2日、東北大学、仙台
Shingo Ashizawa, Exploring e-Portfolio and other Assessment Methods in International Education, NAFSA 2013 Annual Conference & Expo, 2013年5月31日, America's Center, St.Louis, USA
Hiroshi Ota, Globalization and Student Mobility: Emerging Trends and New Directions from and to Japan, NAFSA 2013 Annual Conference & Expo, 2013年5月29日, America's Center, St. Louis, USA
Ayaka Noda & Susumu Shibui, Challenges of Accreditation in the Credit Hour System in the US and Japan, Association for Institutional Research, 2013年5月20日, Long Beach Convention Center, Long Beach, USA
野田文香, 米国における大学国際化評価、平成24年度東京国際交流館国際シンポジウム:大学の国際戦略 - その評価手法と指標を考える(招待講演), 2013年3月18日、東京国際交流館プラザ平成国際交流会議場、東京都
渡部由紀, 欧州における大学国際化評価の動向、平成24年度東京国際交流館国際シンポジウム:大学の国際戦略 - その評価手法と指標を考える(招待講演), 2013年3月18日、東京国際交流館プラザ平成国際交流会議場、東京都
Hiroshi Ota, Using Benchmarking to Enhance Performance in Internationalisation: Cooperation Between Asia and Europe, APAIE Conference and Exhibition 2013, 2013年3月14日, Asia World-Expo, Hong Kong
Hiroshi Ota, Initiatives on Internationalisation: Measurement and Quality Evaluation, APAIE Conference and Exhibition 2013, 2013年3月13日, Asia World-Expo, Hong Kong
芦沢真五, トップダウンか、ボトムアップか 国際化における大学内の構造と国際部の役割、日独シンポジウム「大学の国際化 - 戦略、運営構造およびプロセス」(招待講演), 2012年10月17日、ベル

リン日独センター, ベルリン, ドイツ
Hiroshi Ota, Evaluating Internationalization of University Education in Japan, 24th Annual EAIE (European Association of International Education) Conference, 2012年9月17日, Convention Centre Dublin, Dublin, Ireland
野田文香, 米国における大学国際化の機関評価の現状と課題、日本比較教育学会第48回大会、2012年6月17日、九州大学、福岡県
渡部由紀, 大学国際化評価(機関評価)に関する現状と課題-欧州における大学の国際化評価の動向、日本比較教育学会第48回大会、2012年6月17日、九州大学、福岡県
Shingo Ashizawa, How to Measure Internationalization: Approaches from Different World Regions, NAFSA 2012 Annual Conference and Expo, 2012年6月1日, George R. Brown Convention Center, Houston, USA
Hiroshi Ota, Recent Development and Issues of International Education (Internationalization) Policies in Japan, Rethinking of Internationalization of Education: Asian Community and Education (招待講演), 2012年4月28日, Chi Nan University, Puli, Taiwan
芦沢真五, 国際教育交流の新展開 グローバル人材育成の課題、九州・山口地域の大学国際化ワークショップ(主催:九州大学)(招待講演), 2012年3月16日、ANAクラウンプラザホテル福岡、福岡県
21 Hiroshi Ota, How Could Japanese Universities Become Internationally Attractive?: Perspective of International Students, World University Rankings and “Worldwide Standards” for Universities—How Can Japanese Universities Deal with Structural Changes around the World?—(招待講演), March 9, 2012, Liberty Tower, Meiji University, Tokyo
22 芦沢真五, 競争環境下にある大学の国際化と留学生獲得戦略、留学生教育学会2011年度留学生担当教職員研究分科会(招待講演), 2012年3月2日、岡山大学、岡山県
23 Hiroshi Ota, Differences of International Student Recruitment and Admissions between Japan and Other Countries, Developing English Undergraduate Programs in Japan: Pedagogy, Recruitment and Student Life (招待講演), 2012年1月21日, Kambaikan, Muromachi Campus, Doshisha University, Kyoto
24 太田 浩, 世界の留学生獲得政策とリク

- ルーティングの動向、第 11 回日本語教育機関トップセミナー(招待講演)、2011 年 12 月 06 日、国際ファッションセンター (KFC)、東京都
- 25 Shingo Ashizawa, Internationalization of Japanese Universities and Global JINZAI (Talent), Japan Rising: The Future of the World's Third Largest Economic Power held by Asia Society Southern California (招待講演), 2011 年 11 月 10 日, The California Science Center, USA
- 26 太田 浩、海外留学生の減少傾向と一橋大学における対応策、日本私立大学協会留学生担当者会議 (招待講演)、2011 年 9 月 21 日、アルカディア市ヶ谷 (私学会館)、東京都
- 27 Hiroshi Ota, Evaluation of Internationalization in Japan, 23rd Annual EAIE (European Association of International Education) Conference, 2011 年 9 月 16 日, Bella Center, Copenhagen, Denmark
- 28 Shingo Ashizawa, Hiroshi Ota, Adinda van Gaalen, Darla K. Deardorff, Quality assurance and internationalization review process: Europe, US and Japan, 2011 EAIE (European Association for International Education) Annual Conference, 2011 年 9 月 16 日, Bella Center, Copenhagen, Denmark
- 29 Hiroshi Ota, Recent Development of International Education in Japan, 23rd Annual EAIE (European Association of International Education) Conference, 2011 年 9 月 15 日, Bella Center, Copenhagen, Denmark
- 30 渡部由紀、世界大学ランキング近年の傾向、日本学術会議近畿地区会議学術講演会、2011 年 7 月 30 日、京都大学、京都府
- 31 太田 浩、韓国における国際化 (留学生政策) と私立大学の動向、私立大学の国際化の日韓比較に関する研究会、2011 年 7 月 15 日、私学高等教育研究所、東京都
- 32 Shingo Ashizawa, Recent Trends in Internationalization of Japanese Universities, German-Japanese Young Leaders Forum 2011 (invited), 2011 年 6 月 10 日, Cosmosquare Hotel, Osaka
- ③③ Hiroshi Ota, Diverse Approaches to Measuring Internationalization: Case Study of SIH Project, NAFSA 2011 Annual Conference & Expo, 2011 年 6 月 3 日, Vancouver Convention Center West, Vancouver, Canada
- ③④ Hiroshi Ota, The Strategic Fund for

Establishing International Headquarters in Universities, 55th Annual Conference of The Comparative and International Education Society, 2011 年 5 月 3 日, Fairmont The Queen Elizabeth Hotel, Montreal, Canada

〔その他〕

太田 浩、芦沢真五、野田文香、渡部由紀、一橋大学国際教育センター、『グローバルな競争環境下における大学国際化評価に関する研究 (中間報告書)』、2013、<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/25679>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

太田 浩 (OTA, Hiroshi)
一橋大学・国際教育センター・教授
研究者番号：70345461

(2) 研究分担者

芦沢 真五 (ASHIZAWA, Shingo)
東洋大学・国際地域学部・教授
研究者番号：00359853

渡部 由紀 (WATABE, Yuki)
一橋大学・大学院商学研究科・専任講師
研究者番号：60600111

野田 文香 (NODA, Ayaka)
独立行政法人大学評価・学位授与機構・研究開発部・准教授
研究者番号：20513104

(3) 連携研究者

新田 功 (NITTA, Isao)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号：30208251

横田 雅弘 (YOKOTA, Masahiro)
明治大学・国際日本学部・教授
研究者番号：90200899

堀田 泰司 (HOTTA, Taiji)
広島大学・国際センター・准教授
研究者番号：40304456

上別府 隆男 (KAMIBEPPU, Takao)
東京女学館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：50350707

杉本 和弘 (SUGIMOTO, Kazuhiro)
東北大学・高等教育開発推進センター・准教授
研究者番号：30397921